

私立 北海道武蔵女子短期大学

取組名称 「卒業3年目サロン」を中核とした在學生・卒業生への多元的支援

取組担当者 経済学科 教授 村岡 ひとみ

1. 本学の概要

本学は、1967(昭和42)年1月、北海道の地に豊かな教養と実践的な能力を身につけたパイオニアの女性の育成をめざして設立された。現在、教養学科・英文学科・経済学科の三学科で約850名の学生が学んでいる。

創立以来、教養教育と職業教育の融合を建学の精神とし、教育理想として「真理を求めいつくしむ知性ある女性」「愛に生き信念に生きる気品ある女性」「人類文化の発展に尽くす意欲ある女性」を掲げ、「知・情・意」の調和のとれた女性の育成を目指してきた。

こうした建学の精神に基づき、教養学科には、図書館司書課程とビジネス教養課程の二つの付設課程を設置し、実践的な実務能力の習得を支援している。また、英文学科では、TOEIC対策演習や英検準1級対策演習の科目からなる上級検定英語対策プログラムを、経済学科では、企業実習やオフィスワーク等の科目を組み込んだ企業研究プログラムを設置し、職業や企業に対する理解を深め、実践的な能力の開発に取り組んでいる。

本学の教育実践は社会的にも高く評価されており、地元の有名企業をはじめ多くの企業から求人があり、高い就職率を維持している。本学は開学以来約15,000

名の卒業生を輩出し、北海道の様々な分野で活躍する人材を送り出してきた。

2. 本取組の概要

本取組は、在學生・卒業生のキャリア形成を継続的かつ多元的に支援することで、厳しい雇用環境下での若者の「乗り越え力」を高めることを目的としている。本取組の中核となる「卒業3年目サロン」は、躰きに直面しやすい卒業後3年目までのキャリアエントリー期の全卒業生を対象に毎年開催し、公私にわたる課題の乗り越えを具体的に支援するものである。

在学時に使用した「私の将来手帳」を、卒業後の支援にも活用することで、振り返りと学び直しを促し、自己学習力を鍛えていく。「卒業生講師登録バンク」の充実、「生涯メールシステム」の導入によって、大学を拠点とする在學生と卒業生のつながりを深める。キャリア相談の受け入れを充実させ、在學生はもとより卒業生に対する就職・乗り越え支援を強化する。

このように、入学から卒業後まで生涯にわたる一貫した支援を実現することは、流動化が加速する現代社会で生き抜くために必要な自信と安心感を醸成するものである。

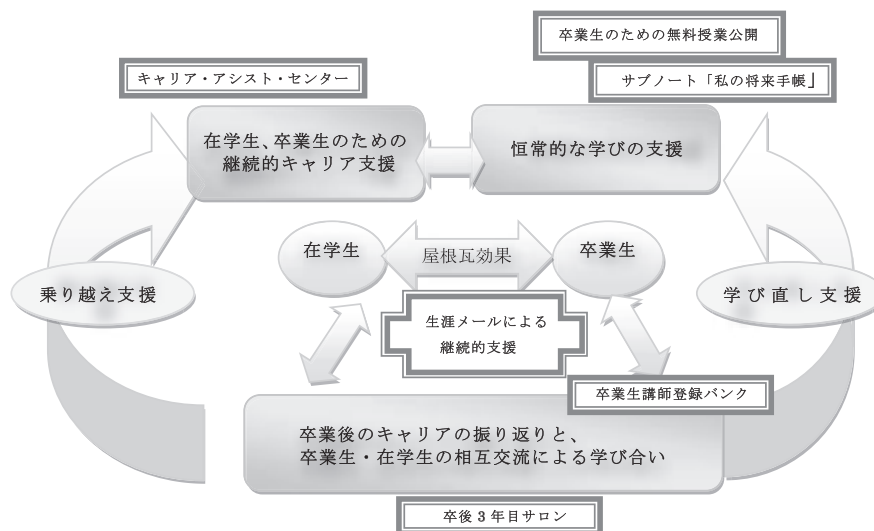


図1 「卒業3年目サロン」を中核とした在學生・卒業生への多元的支援

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

本取組は、地域に根ざした短期大学として入学から卒業までの学生支援に加えて、生涯教育の視点から在學生はもとより卒業生に対しても「安心」と「学び」の機会を提供するものである。これまで本学では、教養学科に付設された図書館司書課程の卒業生を主な対象としたリカレント教育、「図書館員のリカレントプログラム」を実施してきた。2009(平成21)年度で6回目を迎えるが、北海道のほとんどの公共図書館や大学図書館で図書館司書として活躍している卒業生のスキルアップを企図しており、毎回多くの卒業生の参加がある。また、本学の卒業生アンケートでは、リカレントで学びたい項目として、「コミュニケーションスキル」「ビジネスマナー」「英会話」「一般教養」「コンピュータスキル」等が上げられている。本取組は、こうした本学のリカレント教育の実績や卒業生のニーズを踏まえ、本学の卒業生全てに対象を拡大して、「安心」と「学び」の支援体制を構築していこうとするものである。

卒業後3年以内に、若者のおよそ3割が転職するといわれているが、短大卒業生に関しては、およそ4割が転職を経験するという統計もある。本学でも、現状に飽き足らず、あるいは様々な躓きによって転職や退職を考えている卒業生の相談に、これまで教職員が個別に対応してきた。こうした卒業生に対して躓きをできるだけ素早く修正し順調なキャリア形成を支援することが、社会的にも大学に求められているといえる。本取組は、そうした社会的ニーズに組織的に応えるものである。

卒業生に対しては、毎年「卒後3年目サロン」を開催することによってキャリアエントリー期にある卒業生の「振り返り」と気付きを促し、また、3人のキャリアカウンセラーによるキャリア支援相談や、無料授業公開による「学び直し」の機会提供など、不安や悩みを早い段階で軽減し、早期離職防止や就労意欲の維持・向上を図り、順調なキャリア形成を支援していく。

在學生に対しては、就職委員会やゼミ担当教員と連携したキャリアカウンセラーによる就職支援、さらに、サブノートとして「私の将来手帳」を採用することで、学生一人ひとりが自己成長のプロセスを確認し、自立的なキャリアデザインを描けるように支援している。

また、本学では、これまで社会の様々な分野で活躍している卒業生と在學生の交流にも積極的に取り組ん

できた。新入生研修、全学生対象の共通教養科目、経済学科の企業研究プログラム、学内型インターンシップ等で、卒業生を講師として、「屋根瓦」教育を実践してきた。こうした実践を踏まえ、本取組では、さらに組織的かつ体系だったシステムにするために、卒業生講師登録バンクを整備した。このことによって、これまで以上に適任の講師をスムーズに見出すことが可能となり、卒業生の社会経験を在學生の学習支援につなげる「屋根瓦」方式による教育効果を大いに高めることができる。また、卒業生と在學生の交流の活発化を図ることができる。

このように、本取組は、在學生・卒業生の多様なニーズに応えるための多面的支援システムである。グローバル化の進展のなかで、激しく変容しつつある現代社会において、自立的かつ前向きに生きていく力を養成し、一人ひとりの「乗り越え力＝問題解決能力」を高めることを目的としている。卒業生に対するフォローアップをきめ細かく行うことで、卒業生の社会での活躍を推進する効果が期待できる。卒業生支援は在學生支援へと循環する教育効果をもっており、本学の教育改革を不断に推進する契機ともなる。

4. 本取組の具体的内容・実施体制

(1) 取組の具体的内容

(i) 「卒後3年目サロン」

卒後3年目までの卒業生を対象に「卒後3年目サロン」を開催する。キャリア支援講演会、教養講演会、キャリアブラッシュアップ講座、卒業生・在學生交流会、キャリア相談など多彩なプログラムを展開する。

(ii) 「私の将来手帳」

在學時から卒業後までのキャリア支援に役立てるため、全学生に配付する。自己成長のプロセスの確認の一助とし、卒業後のキャリア相談時にも利用していく。

(iii) 「卒業生への無料授業公開」

卒業生に授業を無料で公開することで、卒業生が学びたい時に、いつでも学べる体制を整備する。社会的なニーズでもある学び直し支援を行い、卒業生の社会での様々な活躍を後押しする。

(iv) 「卒業生講師登録バンク」

様々な場面で卒業生の社会経験を在學生に伝えていくため、講師バンクシステムを整備する。在學生はもとより、講師となる卒業生自身にとっても、その経験がスキルアップにつながる。

(v) 「キャリア・アシスト・センター」

在学生・卒業生を問わず、いつでも利用できるキャリア・アシスト・センターを設ける（予約制）。キャリア形成上の悩みや躓きを早期に解消できるよう、専門のキャリアカウンセラーが相談に応じる。


キャリア・アシスト・センターの利用案内
3名のスタッフ（キャリア・カウンセラー）が皆さんのキャリア形成をサポートします。



高橋 直樹 さん
キャリア・カウンセラー
キャリア・アシスト・センター
キャリア・アシスト・センター



中野 由美子 さん
キャリア・カウンセラー
キャリア・アシスト・センター
キャリア・アシスト・センター



高橋 由美子 さん
キャリア・カウンセラー
キャリア・アシスト・センター
キャリア・アシスト・センター

<本学図書1階 センター見取り図>

	月	火	水	木	金	土
10:30	就業支援	就業支援	就業支援	就業支援	就業支援	就業支援
14:30	就業支援	就業支援	就業支援	就業支援	就業支援	就業支援
18:30	就業支援	就業支援	就業支援	就業支援	就業支援	就業支援

利用の方法
申し込みはゼミ担当教員に相談した上で、就職課窓口で予約を行ってください。
※本学圖書1階図書室より隣接された「平成21年度学生就業支援プログラム」(学生支援センター)の一室として実施するものです。

図2 キャリア・アシスト・センター利用案内

(vi) 「生涯メール」

生涯にわたって利用可能なメールアドレスを全学生

表1 本年度「卒後3年目サロン」スケジュール

■10月2日（金）	
キャリア支援講演	17:30～18:30 講演 『働き続けるために大切なこと』 講師 柳沢 洋子 氏（東芝デジタルメディアネット ワーク社イノベーション推進部グループ長）
卒業生交流会	18:45～19:45
■10月3日（土）	
開会挨拶 学長挨拶	13:00～13:15 学長 内田 和男
教養講演会	13:15～14:30 対談 『作家 朝倉かすみ氏を迎えて』 朝倉かすみ氏（作家、平成21年度吉川英治文学新人賞受賞、本学卒業生） 中澤千磨夫 教授
キャリアブラッシュアップ講座	14:40～15:40 講師 和田佳子 准教授
卒業生交流会	15:50～16:50



写真1 キャリア支援講演



写真2 卒業生・在学生交流会



写真3 教養講演会（対談）



写真4 キャリアブラッシュアップ講座

に付与し、就職情報などを確実に在学生及び卒業生に提供する。

(2) 取組の実施体制

本取組の運営にあたっては、学長直轄の組織である「学生支援プログラム運営委員会」の中にワーキングチームを設置した。「卒後3年目サロン」の企画・運営、授業公開科目の年間計画作成、「キャリア・アシスト・センター」の管理・運営、卒業生向け情報発信の管理・運営（生涯メールシステムの導入）、卒業生講師登録バンクのデータ管理・整備、アンケート・聞き取り調査の実施を行っている。本プログラムの実施にあたっては、就職委員会、教務委員会、情報基盤センターなど学内委員会とも連携し、全学的に取り組んでいる。

5. 本取組の評価体制・評価方法

学生支援プログラム運営委員会内に、「プログラム実施評価グループ」を設置し、参加者からのアンケート、聞き取り調査を中心にプログラムの効果について分析、検討を行う。また、卒業生の主な就職先である企業にもアンケートや聞き取りを行い、社会的評価を確認し、教育改善につなげる。今年度の「卒後3年目サロン」参加者アンケートでは、プログラム内容、開催時期、時間の長さについて高い満足度が示された。

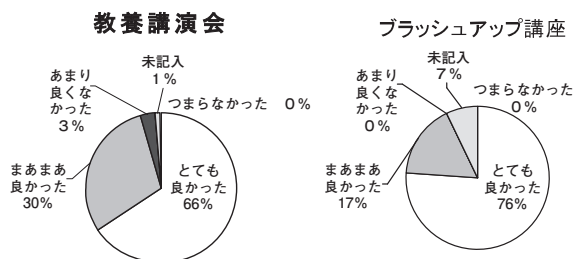


図3 「卒後3年目サロン」参加者満足度

6. 本取組の実施計画等

すでに2回の開催実績がある「卒後3年目サロン」は、本学の卒業生支援事業として今後も継続的に実施する。在学生にも広く認知されており、卒業後のホームグラウンド的存在として定着しつつある。

本プログラムによる新たな取組として、「キャリア・シンポジウム」を開催する。これは、企業や地域で活躍する女性をシンポジストとして招き、多様なライフコース・モデルを啓発していくという主旨で実施するものである。「私の将来手帳」と連動させることで、学生の主体的な取組を強化していく。

「キャリア・アシスト・センター」の利用は卒業生にも広がっており、卒業後の支援に対する信頼感が高まっている。今後は卒業生のためのコミュニケーション・スペースを充実させることで、さらに多面的な支援を展開する予定である。

卒業生講師バンクのデータ更新、卒業生向けHP更新や生涯メールによる情報発信は、さらに充実、向上を図っていく。卒業生への通常授業の無料開放は、すでに卒業生の受講者が登録されているが、今後も広く周知させ、生涯学習の拠点化を図っていく。

表2 「卒後3年目サロン」参加者の感想

<卒業生の感想>

- ・改めて自分の将来について考え、どのような人生を生きていきたいか整理していこうと思った。(H21卒業生)
- ・今回は参加できて本当に良かった。普段は仕事に追われ、自分を振り返る時間もないので、こうした機会にキャリアのことを考えられて良かった。(H20卒業生)
- ・とても楽しかった。短大時代を思い出して原点に帰ったような気持ちになった。在学生との交流もとても刺激的で良い時間だった。またぜひ開催してほしい。(H18卒業生)

<在学生の感想>

- ・悩みを語りながらも充実しているように見えた。卒業や結婚がゴールではないのだと改めて感じた。私も何年か後に、先生方や後輩に胸を張って「充実している」と言えるようになりたい。
- ・とても充実した時間だった。先輩の生の声を聞いて、これからのキャリアプランや人生について考える良い機会になった。
- ・これから卒業して社会人になった時に、きっと先輩たちと同じような気持ちを味わうのだろうと思った。少し心の準備みたいなものができてよかった。